



大人の宇宙図鑑 (Beyond Earth)

デビッド・ジェファリス 著・セバスチャン・キグレイラスト・金子周介 訳

日経ナショナル ジオグラフィック社, 96 頁, 2,362 円+税

読み物
お薦め度
4
☆☆☆☆★

本書では、宇宙開発のこれまでの人類の足跡とこれからの未来予想が、コンピューターグラフィックス (CG) による美しい図を使って紹介されている。

タイトルに「図鑑」とあるので、図や表が盛り込まれた辞書のようなものを予想して読み出したのだが、実際は宇宙開発の過去・現在・未来を時間の流れに沿って紹介した解説書であった。もとの英文タイトルも“Beyond Earth” (地球を超えて) であり、必要な情報をおいっすんで引き出すという辞書的使用ではなく、物語のように最初から通して読むことを念頭に置いて書かれていると感じた。日本語タイトルを付ける際に大胆な意訳をしたものだなと思ったが、本書の内容を誤解させるほどではなく、むしろ書店に並ぶ際には「大人の宇宙図鑑」のほうがより目に付きやすいという意味で良いであろう。内容的にはわかりやすく書かれているので「大人」だけでなく、中高生にも十分読みこなせると思う。価格も良心的なお薦めの本である。

本書の内容をもう少し詳しく見ていこう。本書は四つの章から構成されている。第1章「太陽系の謎を探る」では、人工衛星や探査機によりこれまでわかってきた太陽系天体の姿を紹介している。第2章「宇宙ステーション」では、日本人宇宙飛行士の活躍で話題となった「きぼう」も参加する国際宇宙ステーション (ISS) が紹介されている。第3章「輝く未来宇宙」、第4章「太陽系を越えて」は、未来予想の章である。第3章では宇宙旅行や宇宙ホテルから始まって、金星などの気候の改造—いわゆるテラフォーミング (惑星地球化計画)—による人類の移住など、太陽系内での宇宙開発の未来予想がなされている。そして第4章ではとうとう太陽系を脱出し、太陽系外惑星—第2の地球—へと向かう。この未来予想の部分は一見する

とSFの世界 (すなわちフィクション) のように感じてしまうが、科学的裏づけに基づいた実現可能性が議論されており、なるほどとうなる部分も多かった。特に微生物注入と彗星の人工的衝突による金星の大気改造や、太陽系外惑星への現実的な移動方法の検討のところは、刺激的なCGによる図とも相まって、読んでいて引き込まれた。

現在の人口問題、食糧問題を鑑みるに、今の調子のままで将来全人類が地球だけに住むのは不可能である。もちろん地球上での持続可能な社会の構築というのが最重要課題なのであるが、これと並行して地球外への移住についても今からもっと真剣に考える必要があるのかもしれないなどと、思いを巡らしてみたりするようになった。もちろん未来予想はあくまでも予想である。おそらく本書で紹介されている未来予想のうちの多くは実現せず、代わりにもっと画期的なアイデアなども登場したりして、宇宙開発が進んでいくのであろう。しかしどんな場合でも重要となるのは、本書にも何度も登場するように、太陽のエネルギーをいかに効率的に利用するかということである。このことは宇宙開発だけでなく地球上のエネルギー問題と同じである。

本書は内容も充実した良い本であると思うのだが、少し気になった点を二つほど。第1章で (1) 惑星の分類に関して現在主流ではない説が紹介されている、(2) 太陽観測衛星の項目では、大活躍している日本の「ようこう」や「ひので」が全く紹介されず、欧米のものだけ取り上げられているという2点が少し残念であった。(1) に関しては学説というのはどんどん更新される、(2) については本書は翻訳本であるということ踏まえれば致し方ないとは思いますが、この2点は日本語版の再版の際にも出版社の方々に修正していただければ願う。

鈴木 建 (名古屋大学大学院理学研究科)